

種の概要

京都府、滋賀県、福井県、岐阜県、石川県、富山県、兵庫県に分布。殻長約14mm、殻径約15mm(旧:美方郡村岡町産)。殻は薄く県内に分布する*Satsuma*属の中では小型である。殻形は低い円錐形だが、周縁から殻底にかけて丸みが強くなるので、全体としては球形に近い。成貝では殻口は広がるが、一度窄まってから反転するので殻口縁は浅くくびれる。殻表は平滑で濃い赤褐色で、強い光沢がある。県内では但馬の内陸部で確認されており、いずれの生息地も開けた谷筋の斜面で、手前が杉林や灌木等で被われ常に日陰になっているような場所である。また近くには沢や溪流があり、それによって生息地周辺は常にある程度の湿度が保たれていることが必要と考えられる。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
				○	○	○	○

県内分布

宍粟市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町

県内における生息状況及びその他特記事項

ランク変更なし。主に但馬地域に分布する。やや内陸の開けた谷筋に生息地が点在するが、いずれの生息地も局所的で、個体数は非常に少ない。また本県は分布の西限にあたる。

保護上の留意点

近年になって県内においては複数の生息地が確認されたが、これは本種の好むと考えられる生息環境の条件が把握され始めたことによるもので、いずれの生息地でも個体数は非常に少ない。今後の調査によってさらに生息地が確認される可能性があるが、希産種として知られている事から、採集圧による個体数の減少が危惧される。



写真提供：増田修



写真提供：増田修

【執筆者】 宇野明